

ウクライナにおける言語イメージの変化： ロシア連邦による軍事侵攻の影響¹

池澤 匠

はじめに

2022年2月24日、ロシア連邦はウクライナへの全面的侵攻を開始し、世界に衝撃を与えた。執筆時点で本侵攻は11ヶ月目を迎えており、双方の従軍者のみならず、多数の民間人が犠牲になっており、未だ終結の見込みが立っていない。現在の軍事侵攻の発端はロシアによるクリミア併合ならびにドネツク・ルハンスク両州の一方的独立などであり、実際にはウクライナ・ロシア間の軍事衝突は遡ること2014年より続いている。戦時下にあつて、ウクライナでは言語問題に関する議論がより一層激しくなっており、今では「ロシア語からウクライナ語に切り替える」運動が盛んとなっている。

本稿はロシアの軍事侵攻によりウクライナにおけるウクライナ語とロシア語、ならびに両語の混合語であるスルジクの社会的評価が、如何に変化しているか考察する。次節からは主に統計資料をもとにウクライナの言語状況を概観し、続けて言語問題に関連する近年の政治的・社会的出来事について論ずる。本研究では軍事侵攻以後の同国のウェブメディアの記事における各言語に関する言説を分析することで、ウクライナにおける言語イデオロギーの最新の状態を記述することを試みる。

1. ウクライナにおける多言語併用

¹ 本論文は JSPS 科研費特別研究員奨励費 22J12435/22KJ0866「脱ロシア化と再ウクライナ化：現代ウクライナに於ける言語イデオロギーの二面性」（代表研究者：池澤匠）、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP2108、ならびに 2022 年度北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター中村・鈴川基金奨励研究員の助成を受けた研究成果の一部である。本稿は 2022 年 8 月 8 日に開催された同奨励研究員報告会での口頭発表「ロシア連邦の軍事侵攻を受けたウクライナのメディアにおける言語イメージの変化」を再検討の上、新たな資料をもとに論文に書き改めたものである。また本論考は 2019 年時点の資料を分析した拙稿 IKEZAWA Takumi, “Reinterpretation of Historic Language Valuation within the Pro-Ukrainian Linguistic Ideology”, *Slavistika: Annual Report of the Department of Slavic Languages and Literatures, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo* 36 (2021), pp. 85-102 の研究を発展させたものであり、背景事情の説明ならびに方法論の部分で重複する箇所がある。

1-1. 歴史的背景

現代のウクライナでは憲法上唯一の国家語であるウクライナ語のみならず他の多くの言語共同体が存在するが、とりわけロシア語の影響力が大きく、両語の分布は地理的要因のみならず社会的要因に左右されている。この要因としては、ロシア帝国からソ連時代にかけて採られたロシア化政策が不均一に反映されていることが挙げられる。1772年から1795年のポーランド分割を経て現在のリヴィウを中心とするガリツィアはオーストリアの支配下となり、以東はロシア帝国に編入された。現代のウクライナ南東部では近代化がロシア語を介して進められ、バルカンやドイツ語圏の移民を含めてロシア語が共通語として用いられるようになり、19世紀後半から20世紀半ばにかけては多くのロシア人がハルキウやドンバスの鉱山地帯に入植している。² このように産業革命は被支配地域の工業都市でロシア語話者が急増する事態を引き起こし、特にウクライナとベラルーシでは言語の近似性や都市農村間の格差の意識から、ロシア語が支配的な言語となり、ウクライナ語・ベラルーシ語が「過去に後戻りした農村の言語」として認識されるに至った。³

かくしてウクライナの言語問題は「東と西」のみならず「都市と農村」の対立軸でも取り上げることができ、⁴ 一般的にロシア語話者が多いとされる現代の東部でも、実際にはロシア語を話す都市部がウクライナ語を話す農村部に囲まれている。⁵ 現時点で最新の全数調査である2001年の国勢調査によれば、⁶ 国民全体の67.5%がウクライナ語を、29.6%がロシア語を母語として申告しているが、この数値は地域によって大きく異なる。西部のリヴィウ州ではウクライナ語が95.3%に上り、ロシア語は3.8%に過ぎないが、東端のドネツク州ではそれぞれ24.1%と74.9%、ルハンスク州では30.0%と68.8%、1954年に当時のロシア共和国からウクライナ共和国に移管されたクリミア自治共和国ではウクライナ語10.1%、ロシア語77.0%、クリミア・タタール語11.4%である。このような地域差に加え、農村部と都市部の違いも目立っており、前者は国全体でウクライナ語が85.8%、ロシア語が9.5%であるのに対し、後者は58.5%と39.5%である。⁷

² John-Paul Himka, "The History behind the Regional Conflict in Ukraine," *Kritika: Explorations in Russian and Eurasian History* 16, no. 1 (2015), pp. 133-134.

³ Aneta Pavlenko, "Linguistic russification in the Russian Empire: peasants into Russians?," *Russian Linguistics* 35 (2011), pp. 346-347. なお本稿における欧文の引用は全て筆者訳である。

⁴ Bridget Goodman, "The Ecology of Language in Ukraine," *Working Papers in Educational Linguistics* 24, no. 2 (2009), p. 25.

⁵ Dávid Karácsonyi et al., "East-West dichotomy and political conflict in Ukraine – Was Huntington right?," *Hungarian Geographical Bulletin* 63, no. 2 (2014), pp. 116-118.

⁶ Державний комітет статистики України. Мовний склад населення [<http://2001.ukrcensus.gov.ua/results/general/language/>] (2022年1月13日閲覧).

⁷ Позняк О. В., Шишкіна Л. Я., Шура А. О. Етно-національні відносини // Соціальна безпека: теорія та українська практика / За ред. І. Ф. Гнибіденка, А. М. Колода, В. В. Рогового. К., 2006. С. 191.

1-2. ウクライナ語とロシア語の併用の実態

2001年の国勢調査はウクライナ語とロシア語の分布の代表的な統計であるが、かねてから国勢調査で用いられる「母語」の項目は曖昧な概念であり、⁸ またウクライナ語とロシア語は近似性が高い言語のため、『母語は一応ウクライナ語だと意識しているが、現実によく使うのはロシア語』という人が多く、実際のウクライナ語使用頻度は『母語』維持率が示すよりもずっと低かったことが過去の調査でも指摘される。⁹ 国勢調査では「他に堪能である言語 [単数]」の項目もあり、「母語」と合わせて各語の話者を推計すると国全体でウクライナ語が 87.8%、ロシア語が 65.7%との数値が出るが、独立後はソ連時代と異なり「多くの人々が自らのウクライナ語の習熟度を過大評価し、ロシア語 [の習熟度は] 過小評価する傾向」にある。¹⁰ 1989年時点でガリツィア地方（イヴァーノ＝フランキウシク州・テルノーピリ州・リヴィウ州）においてロシア語に堪能である者は人口の半数以上であったが、2001年には4分の1以下になっており、クリミア・ドンバス地方・オデーサ州ではウクライナ語に堪能である者が1.3倍から1.5倍に増えている。¹¹

かくして国勢調査は言語外の要因から当時の実態を反映しているとは限らず、¹² 特に「母語」の割合が実際の言語運用と対応していないことは近年の世論調査からも明らかである。2019年にマーケティング会社 Kantar が都市の住民に対して行った調査では、¹³ ウクライナ語母語話者が63%、ロシア語母語話者が35%、その他が2%であった。それに対し「(程度にかかわらず)他に話せる言語 [複数]」としては英語70%、ロシア語63%、ウクライナ語36%、ポーランド語24%が挙げられる。また各語の習得具合を0から10の中から答える設問では、ウクライナ語とロシア語が共に平均して7.4、英語は3.7の結果が出ており、ウクライナ語母語話者はロシア語も話すことができ、ロシア語母語話者はウクライナ語も話せることが推察される。その他にも母語以外で各種状況に応じて使える言語(表

⁸ Debra A. Friedman, “Our Language: (Re)Imagining Communities in Ukrainian Language Classrooms,” *Journal of Language, Identity & Education* 15, no. 3 (2016), p. 168; 木裕子「ウクライナにおける『リドナ・モーヴァ』概念の曖昧さ —キエフ大学学生を対象にしたアンケート調査でみられた矛盾回答の分析—」『ロシア・東欧研究』36号、2007年、110-121頁。

⁹ 塩川伸明『民族と言語 多民族国家ソ連の興亡I』岩波書店、2021年、215頁。

¹⁰ Позняк та ін. Етно-національні відносини. С. 191.

¹¹ Там же.

¹² 現代のウクライナに限らず、旧ソ連圏の「母語」調査は実施年による定義ならびに分類に用いられる言語リストの変動や、帰属民族が回答に及ぼす影響などといった問題点が古くから指摘されている。詳しくは渋谷謙二郎『『母語』と統計—旧ソ連・ロシアにおける『母語』調査の行方』『ことばと社会』10号、2007年、175-207頁を参照されたい。

¹³ Kantar. Дослідження: мовна ситуація в Україні [https://tns-ua.com/news/doslidzhennya-movna-situatsiya-v-ukrayini] (2022年1月13日閲覧)。

1) や実際に用いる言語(表2)の設問に対する回答から、ロシア語が様々な場面で広く用いられることが分かる。

(母語を除いて)以下のことができる言語 [複数] は…				
	露語	英語	宇語	波語
会話する	60%	35%	34%	12%
テレビ・ラジオのニュースを理解する	60%	35%	34%	19%
新聞・雑誌を読む	60%	36%	34%	14%
インターネットで会話する	60%	44%	33%	10%

表1. 社会的場面による言語能力

以下の場所で普段用いる言語 [単数] は…				
	露語	宇語	その他	不回答
家・家族の中	49%	49%	1%	1%
友人・知人と	52%	44%	2%	2%
教育機関で	30%	53%	1%	16%
仕事で	47%	48%	1%	4%
インターネット上	56%	39%	2%	3%

表2. 社会的場面で用いられる言語

1-3. 二言語併用とスルジク

同じ地域にウクライナ語とロシア語が長らく併存し、また今でもバイリンガルが人口の多くを占めることにより、現代のウクライナには「スルジク」と呼ばれる混合語が存在する。スルジクの原義は「ライ麦が混ざった小麦」であるが、¹⁴「低品質」といった軽蔑的な意味合いを含んでいる。¹⁵ 歴史的にスルジクはロシア帝政時代の同化政策で行政や教育の分野にロシア語が導入されたことにより、教会スラヴ語とロシア語の言語要素がウクライナ語の音韻・語彙・形態に組み合わさって成立したと考えられる。¹⁶ 当該混合語はウクライナ語とロシア語から成り立っているものの、れっきとした文語・語彙・使用範囲を備える「言語」である両者には肩を並べられないことから、一般的には「言語でない」との烙印を押される。

スルジクの社会的評価は概して低いが、実際には口語として幅広く用いられている。1996年から2003年にかけてキーウ国際社会学研究所はインタビューの会話の分析から、ウクライナ語とロシア語ならびにスルジクの使用割合を調査している。¹⁷ それによれば、2003年時点の国全体でウクライナ語の使用が39.6%、ロシア語は48.5%、スルジクは11.9%であった(表3)。地域別では東西両端よりも中間地域の数値が大きく、更に興味深いのはウクラ

¹⁴ Етимологічний словник української мови. Т. 5 / Уклад. Р. В. Болдирев та ін. К., 2006. С. 479. 接頭辞 су-とрожь「ライ麦」から成る名詞 суржа の指小形である。

¹⁵ ウラジーミル・ダーリの辞書では「不純な小麦 (нечистая пшеница)」と定義される他、俗信として「変異した穀粒 (перерод)」の意味が載っている。Даль В. И. Толковый словарь живого великорусского языка. 2-е изд. Т. 4. СПб., 1882. С. 371.

¹⁶ Масенко Л. Т. Суржик: між мовою і язиком [Електронний ресурс]. К., 2019 [http://ekmair.ukma.edu.ua/bitstream/handle/123456789/16244/Masenko_Surzhik_mizh_movoiu_i_yazykom.pdf?sequence=1&isAllowed=y] (2023年1月15日閲覧).

¹⁷ Хмелько В. С. Лінгво-етнічна структура України: регіональні особливості й тенденції змін за роки незалежності // Наукові записки НаУКМА. Соціологічні науки. 2004. Т. 32. С. 3-15.

イナ語とロシア語の双方を得意とする (легше спілкуватися) 回答者でスルジクの使用割合が高いことである (表 4)。このような統計は「ある地域で二言語を話す者が多いほど、当該地域でスルジク話者が多くなる」ことを示しており、スルジクが言語接触の産物であることがよく分かる。¹⁸ なお本調査では通時的にスルジクの使用割合が減少しているが、¹⁹ 2017年に独・宇・露の国際研究グループが被占領地域を除いた全国で実施した、対象者の居住地で用いられる言語に関するアンケート調査では、ウクライナ語が 38.0%、ロシア語が 24.0%、両語が 21.6%、スルジクは 15.0%であり、2006年の前回調査からスルジクの値は5%上がっている。²⁰

使用言語	西部	西中部	東中部	南部	東部	全体
ウクライナ語	94.4%	61.2%	31.9%	5.2%	3.7%	39.6%
スルジク	2.5%	14.6%	21.7%	12.4%	9.6%	11.9%
ロシア語	3.1%	24.2%	46.4%	82.3%	86.8%	48.5%

表 3. 2003年時点の言語別の使用割合²¹

得意な言語	宇語	両語	露語	全体
ウクライナ語	90.6%	18.9%	1.3%	39.7%
スルジク	7.9%	36.6%	5.5%	12.0%
ロシア語	1.5%	44.5%	93.2%	48.3%

表 4. 得意な言語別の使用割合²²

独立後のウクライナでは「言語は民族的アイデンティティに直結し、ウクライナ語とロシア語が『純粋な』別個の国家に存在するべき」とする言語イデオロギーが主流であるが、このような考え方がウクライナ人全体に共有され、実際の言語行動に反映されているとは限らない。²³ 特に現在のウクライナ中央部では公の場でウクライナ語を使い、筆記の面ではウクライナ語・ロシア語の双方で読み、話し言葉としてはウクライナ語・ロシア語・スルジクを用いる、複雑な「トライグロシア」が成り立っている。²⁴

2. 言語をめぐる政治的ならびに社会的動き

2-1. 言語政策と世論

¹⁸ Масенко. Суржик: між мовою і язиком.

¹⁹ Хмелько. Лінгво-етнічна структура. С. 10 に掲載されるデータでは、1996年から1999年の平均が18.2%、2000年から2003年が14.7%であることが示されており、後者のうち2000年は16.3%、2001年は16.1%、2002年は14.2%と、2003年の11.9%に至るまで漸減している。

²⁰ Масенко. Суржик: між мовою і язиком.

²¹ Хмелько. Лінгво-етнічна структура. С. 10-11.

²² Хмелько. Лінгво-етнічна структура. С. 12.

²³ Laada Bilaniuk, "Speaking of 'Surzhyk': Ideologies and Mixed Languages," *Harvard Ukrainian Studies* 21, no. 1-2 (1997), p. 105.

²⁴ Tomasz Kamusella, *Politics and the Slavic Languages* (London: Routledge, 2021), p. 49.

現在まで続く言語問題の議論の発端となったのは 1989 年に策定されたウクライナ共和国の言語法である。ウクライナはソ連構成国の中でも「ウクライナ自身が特に教育を通じてロシア化するという傾向が最大の問題点」として認識されており、「国家語」の制定は大きな政治的争点であった。²⁵ ウクライナ語は初めて唯一の国家語として規定されたが、²⁶ ロシア語はウクライナ語および他の言語と共に「民族間交流語」として「数ある中の一つ」のような扱いを受けたため、ロシア語を第二の国家語にすることを望むロシア語話者から反発を招いた。²⁷ 独立以後はウクライナ語の普及が進むが、ドンバスを中心とするウクライナに住むロシア人はこれを「強制的なウクライナ化」として捉え、「自分たちのロシア人としてのアイデンティティの維持にとって脅威」と認識し、政策の変更を要求するなど、早くも 1990 年代からロシア語の地位問題は大きな政治論争を巻き起こしている。²⁸

この傾向は 2004 年の大統領選挙にも現れており、西部を基盤とする西欧派のユシチェンコは NATO・EU 加盟を、東部を基盤とする親露派のヤヌコーヴィチはロシア語の国家語化を主張し、激しく争った。²⁹ 敗れたヤヌコーヴィチは 2010 年に再出馬し、西部を基盤とするティモシエンコに勝利する。当時のヤヌコーヴィチの得票率とロシア語国家語化の支持率は高い相関性を示しており、「使用言語の問題は人々のアイデンティティ意識と密接につながっており、社会・国家観の違いから親欧対親露という東西政治対立へと発展する理由」になっていた。³⁰ ヤヌコーヴィチ政権は 2012 年に「国家言語政策の基本に関する法律」を制定し、話者が人口の 10%以上にあたる場合、「地方言語」としてその言語の該当地域における公的な使用を認めた。³¹ 本法は事実上対象がロシア語であったため、「クレムリンのトロイの木馬」「ロシア化の第五列」などといった批判を呼んだ。³²

2014 年の政治騒乱を経てウクライナの言語政策はウクライナ語の普及に動き、2018 年に憲法裁判所が「国家言語政策の基本に関する法律」を違憲と判断した。翌年 4 月にポロ

²⁵ 塩川伸明『民族と言語 多民族国家ソ連の興亡 I』岩波書店、2021 年、217 頁。

²⁶ *Верховна Рада України. Про мови в українській РСР* [<https://zakon.rada.gov.ua/laws/show/8312-11/ed19891028>] (2022 年 1 月 13 日閲覧).

²⁷ 塩川伸明『民族と言語』、218-219 頁。

²⁸ 中井和夫『ウクライナ・ナショナリズム 独立のディレンマ』東京大学出版会、1998 年、217 頁。

²⁹ 芳之内雄二「ウクライナの現代言語状況と言語問題」『北九州市立大学文学部紀要』74 号、2008 年、54 頁。

³⁰ 石郷岡建「ウクライナ危機の背景の東西分裂とその行方」『比較経済研究』52 巻 2 号、2015 年、48 頁。

³¹ *Верховна Рада України. Про засади державної мовної політики* [<https://zakon.rada.gov.ua/laws/show/5029-17>] (2023 年 1 月 15 日閲覧).

³² Vladislava Reznik, “Language Policy in Independent Ukraine: A Battle for National and Linguistic Empowerment,” in Ernest Andrews, ed., *Language Planning in the Post-Communist Era* (Cham: Palgrave Macmillan, 2018), p. 179.

シェンコ政権は「国家語としてのウクライナ語の機能保全に関する法律」を制定し、³³ ウクライナ語を国家の象徴として位置付けた上で、行政・教育・顧客サービスなどの幅広い公的分野でウクライナ語の使用を義務付けている。メディアや出版の分野ではクォータ制が導入され、印刷メディアの外国語による出版部数はウクライナ語と同等であること、また書店で販売されるウクライナ語の出版物の割合が50%以上になることが定められる。³⁴ 本法律はロシア語の支持者とウクライナ語の支持者の双方から批判を受けており、³⁵ 世論調査からも新言語法の有効性については意見が分かれている。キーウ国際社会学研究所の2020年5月から6月の調査では新法でウクライナ語がより広く用いられるようになったかを聞いているが、³⁶ 全体の過半数が「何も変わらない」と答えており、特に西部は厳しい評価を下している（表5）。ただし政府が新言語法の施行を続けるべきかという問いでは、地域によって「完全に賛成」か「むしろ賛成」かに差が見られるものの、国全体を通じて賛成が過半数を占める（表6）。

ウクライナ語が…	西部	中部	南部	東部	全体
大いに広まった	9.6%	16.8%	18.6%	13.3%	14.8%
少し広まった	22.9%	22.9%	19.6%	29.4%	23.0%
少し狭まった	3.3%	2.5%	2.4%	2.6%	2.7%
大いに狭まった	1.7%	1.8%	0.9%	1.2%	1.5%
変わらない	56.7%	49.5%	52.6%	47.8%	52.0%
回答難	5.4%	5.4%	5.1%	5.3%	5.3%
不回答	0.5%	0.9%	0.8%	0.4%	0.7%

表5. 新言語法の効果に関する意識調査

新法に…	西部	中部	南部	東部	全体
完全に賛成	50.6%	41.7%	22.6%	18.9%	36.3%
むしろ賛成	27.8%	29.3%	30.6%	36.6%	30.2%
むしろ反対	6.8%	9.2%	18.8%	16.6%	11.9%
完全に反対	5.4%	7.1%	9.8%	11.3%	7.9%
回答難	9.0%	11.7%	16.8%	16.2%	12.8%
不回答	0.4%	1.0%	1.4%	0.4%	0.9%

表6. 新言語法の施行に関する意識調査

³³ Верховна Рада України. Про забезпечення функціонування української мови як державної [https://zakon.rada.gov.ua/laws/show/2704-19] (2023年1月15日閲覧).

³⁴ Масенко Л. Т. Закон про державну мову: передісторія, ухвалення, основні норми // Українська мова і література в школах України. 2019. № 7-8. С. 27-28.

³⁵ 当時の野党「反対ブロック」の議員らは「事実上ロシア語話者の住民を言語に基づいて差別する」などとして違憲審査を2019年6月21日付で申し立てていたが、2021年7月14日に棄却されている：Конституційний суд України. Рішення Конституційного суду України у справі за конституційним поданням 51 народного депутата України щодо відповідності Конституції України (конституційності) Закону України «Про забезпечення функціонування української мови як державної» [https://ccu.gov.ua/sites/default/files/docs/1_p2021.pdf] (2023年1月15日閲覧). また本法律には多くの例外規定が存在し、移行期間として一部条項の施行が数年先に設定されていることから「ウクライナ語に国家語としての地位を与えるものではない」との評価も受けている：Фаріон І. Д. Ліберально-гібридна модель мовного питання в законі України «Про забезпечення функціонування української мови як державної» // Записки з українського мовознавства. 2019. № 26(2). С. 109-119.

³⁶ Київський міжнародний інститут соціології. Ставлення населення України до закону про мову [https://kiis.com.ua/?lang=ukr&cat=reports&id=960&page=1] (2023年1月15日閲覧).

前節までに見たように、ウクライナにおけるウクライナ語とロシア語は歴史的経緯から複雑な言語地図を形成しており、明確な「ウクライナ語圏」ないし「ロシア語圏」は存在しない。しかしながら社会的要因によってロシア語が権威ある言語として長らく位置付けられてきたことにより、ソ連末期以降にウクライナ語再興の必要性が唱えられ、これはロシア語話者にとって言語権の侵害として映った。言語政策が政治化したことにより、ウクライナ語の支持は西欧志向を、ロシア語の支持は親ロシアという政治的動向に結びつき、国が双方の間で揺れ動く中、言語政策の妥協点は見出されていなかった。

2-2. 「ルースキー・ミール」と全面的侵攻

2014年以降ウクライナの言語政策は「ウクライナ化」に傾いているが、これはロシア政府がロシア語を政治外交の手段として利用していることが背景にある。ロシアでは2000年代から「ルースキー・ミール」が「国外に住むロシア語話者を包含する」概念として安全保障戦略の一部となっており、³⁷ 特に2013年から2014年のウクライナ政治危機を経て地政学的な文脈ではロシアの領土拡張・領土回復主義に深く結び付いている。³⁸ 一般的に同用語は日本語で「ロシア世界」、英語で *Russian world* と訳されるが、ラテン語訳の *Pax Russica* が示すように多義的かつ曖昧な概念である。ロシア語の名詞「ミール (мир)」は「世界」のみならず「平和」も意味し、「ルースキー (русский)」もまた「ロシア」の他に東スラヴ人全体としての「ルーシ」を指す形容詞である。これは言葉遊びの一種として捉えられ、「ルースキー」は古代ルーシに遡る歴史的起源を、「ミール」は同概念によって平和な世界が形成される意味合いを含んでいる。³⁹

ロシア政府はウクライナを「ルースキー・ミール」の一部として捉え、2004年の大統領選挙でヤヌコーヴィチへの支持を公然と表明し、ウクライナがロシア語話者の権利を侵害しているとして批判を繰り返すなど、同国の言語政策に深く関与してきた。⁴⁰ ヤヌコーヴィチ政権崩壊後に始まった2012年の言語法を見直す動きは、ロシア政府がウクライナのロシア語話者を保護する口実となり、更には侵略的行動を正当化する事由となった。⁴¹ 2022年

³⁷ Alexander Sergunin, *Explaining Russian Foreign Policy Behavior: Theory and Practice* (Stuttgart: Ibidem, 2016), p.45.

³⁸ Irina Kotkina, “Geopolitical Imagination and Popular Geopolitics between the Eurasian Union and Russkii Mir,” in Mark Bassin and Gonzalo Pozo, eds., *The Politics of Eurasianism: Identity, Popular Culture and Russia's Foreign Policy* (London: Rowman & Littlefield, 2017), p.65.

³⁹ Ibid., p. 63-64.

⁴⁰ Michael Moser, *Language Policy and the Discourse on Languages in Ukraine under President Viktor Yanukovich (25 February 2010-28 October 2012)* (Stuttgart: Ibidem, 2013), pp. 123-179.

⁴¹ Michal Wawrzonek, “The ‘Russian World’ and Ukraine,” in Christian Noack, ed., *Politics of the Russian Language Beyond Russia* (Edinburgh: Edinburgh University Press, 2021), pp. 19-44.

2月21日にプーチン大統領はドネツク人民共和国ならびにルハンスク人民共和国の主権と独立を承認する大統領令に署名した。その際の演説では2019年の新言語法などの政策が「脱ロシア化と強制的同化の路線」であり、「ロシア語が学校や、普通の商店に至るまで公共の場から閉め出されている」との意見を述べている。⁴²

この言語に関するロシア政府の主張はウクライナ国民の大多数によって拒絶されている。2022年12月にキーウ国際社会学研究所が行った調査によれば、個々人の民族の判断基準は48%が親の民族属性、36%が住んでいる国、7%が当該民族に対する自らの態度であり、言語は3%に過ぎない。⁴³ また同年5月の別な調査ではウクライナ語・ロシア語・その他少数言語の話者の権利が侵害されているか聞いており、それぞれ「侵害されない」が73.4%・79.7%・68.1%であり、2021年2月の前回調査から大きく上がっている（表7）。⁴⁴ ロシアによるウクライナ侵攻はむしろ言語的「ウクライナ化」を推し進めており、同年3月と8月に実施されたレーティング・グループの世論調査を見ると、侵攻前と比べてロシア語を普段話す者の割合は小さく（表8）、ウクライナ語を唯一の国家語として望む者の割合は大きくなっており（表9）、南部と東部でウクライナ語話者の割合が増えている（表10）。⁴⁵

以下の言語を話す市民の権利は侵害されているか						
	ウクライナ語		ロシア語		他の少数言語	
	21年2月	22年5月	21年2月	22年5月	21年2月	22年5月
常に侵害される	7.6%	4.9%	1.6%	0.1%	1.1%	0.4%
場合により侵害される	26.7%	14.6%	24.2%	10.5%	26.1%	12.2%
侵害されない	49.7%	73.4%	57.5%	79.7%	47.7%	68.1%
回答難	16.0%	7.1%	16.7%	9.7%	25.1%	19.2%

表7. 侵攻前後の言語権侵害に関する意識

使用言語	21年12月	22年3月	22年8月
ウクライナ語	46%	48%	51%
ロシア語	26%	18%	13%
両語	27%	32%	34%

表8. 侵攻前後の使用言語

⁴² *Администрация Президента России*. Обращение Президента Российской Федерации [http://www.kremlin.ru/catalog/countries/UA/events/67828] (2022年1月15日閲覧).

⁴³ *Кулик В.* Мова та ідентичність в Україні на кінець 2022-го [https://zbruc.eu/node/114247] (2022年1月15日閲覧).

⁴⁴ *Фонд Демократичні ініціативи імені Ілька Кучеріва*. Боротьба в інформаційній та культурній царинах: що думають українці про державну мовну політику та пропаганду на тлі агресії РФ [https://dif.org.ua/uploads/pdf/98972130362986a6f9b38b7.18237937.pdf] (2022年1月15日閲覧).

⁴⁵ *Рейтинг*. Сімнадцять загальнонаціональне опитування: Ідентичність. Патріотизм. Цінності [https://ratinggroup.ua/files/ratinggroup/reg_files/rg_ua_1000_independence_082022_xvii_press.pdf] (2022年1月15日閲覧).

ウクライナ語とロシア語は如何に共存するべきか			
	21年9月	22年3月	22年8月
宇語が唯一の国家語	65%	82%	86%
宇語が国家語で露語が特定地域の公用語	12%	8%	10%
露語は宇語と並ぶ全土の国家語	22%	7%	3%
回答難	2%	2%	1%

表 9. 侵攻前後の言語政策に関する意識

宇語を…	戦争まで				過去半年			
	西部	中部	南部	東部	西部	中部	南部	東部
常に話す	91%	60%	25%	16%	94%	70%	37%	34%
時々話す	7%	24%	38%	51%	4%	20%	41%	44%
稀に話す	2%	11%	28%	27%	2%	6%	19%	18%
全く話さない	0%	4%	8%	5%	0%	3%	2%	4%
回答難	0%	1%	1%	1%	0%	1%	0%	0%

表 10. 22 年 8 月起点の宇語の使用割合

これらの統計は戦況が刻一刻と変わる中で取られており、特にレーティング・グループの世論調査の場合はモバイルネットワークが機能しない地域が除外されているため、鵜呑みにはできない。しかしながら少なくとも、現在の全面的侵攻の発端が言語を基準とした「ルースキー・ミール」の保護ないし拡大であるとすれば、これはむしろウクライナにおける「ロシア語からウクライナ語に切り替える」傾向を全体的に強めていると言える。

3. 研究のアプローチ

3-1. 急速な「ウクライナ化」と「ネオ・スルジク」

ロシアによる侵攻が言語的「ウクライナ化」を推し進める結果となっていることは、統計以外の面でも観察されており、ラジオ・テレビではロシア語の楽曲や文化作品の放送が減少し、インターネットではウクライナ語のオンライン教室が多数開かれている。⁴⁶ 言語は敵味方を見分ける手段として用いられており、2022 年 3 月 1 日にウクライナ軍部は Facebook で「特徴的なロシア語の訛りがある不審者」に注意するよう告知を出している。⁴⁷ これに呼応するように、3 月 24 日に Twitter に投稿された画像で「私たちの土地に入ってきている作業員を特定するため、注文はウクライナ語でのみ承ります！」と書かれた紙がガソリンスタンドに掲示されており、⁴⁸ 一般市民の間でロシア語を敬遠しウクライナ語の使用を推奨する動きが見られる。実際の言葉遣いの面では「ロシア人」を指すのに「モスカリー」や「カツァーブ」などの蔑称や、英語の「ロシア」と「ファシスト」の混成語である「ラシスト」が新たに用いられる。⁴⁹ メディアでは「ロシア」や同国の政治家の名前

⁴⁶ Петрів О. І. Українська мова у воєнний час // Наукові записки Національного університету «Острозька академія»: серія «Філологія». 2022. № 14(82). С. 14.

⁴⁷ Служба безпеки України. ВАЖЛИВО!!!! Будь ласка, ознайомтесь та повідомте всім своїм контактам чергові короткі інструкції. [https://www.facebook.com/photo/?fbid=308661241360793] (2023 年 1 月 15 日閲覧).

⁴⁸ Out of context Ukraine. Заїхав зранку на азс [https://twitter.com/OutUkraine/status/1506980076843421705] (2023 年 1 月 15 日閲覧).

⁴⁹ Петрів. Українська мова у воєнний час. С. 15.

を小文字で始めて記すことがあり、「ロシア語」はロシア軍の識別符号から戦争支持のシンボルとなった「Z」マークが反映された *rozійська мова* などの表記が見られる。⁵⁰

このように言語環境が変化しつつある現在のウクライナでは新たな混合語の形態が広まっていることが考えられる。独立後の同国ではウクライナ語が唯一の国家語になったことで、ロシア語話者が必要に迫られてウクライナ語を話そうとして結果的に両語を混合してしまう「ネオ・スルジク」が発生しているとされる。⁵¹ これは前述の工業化の中で生じたウクライナ語からロシア語への言語同化とは逆に、ロシア語をベースとした混合語であることが仮定できる。⁵² 現在のウクライナではロシア語を主に話していたか、得意であった人々が、新たにウクライナ語を話し始めているか、学び始めていることが想定できるため、新たに発生しているであろうスルジクを研究の対象に入れる意義は大きい。

3-2. 理論的枠組⁵³

このような経緯を踏まえ、以下からはウクライナで広く用いられるウクライナ語・ロシア語・スルジクの3つの言葉が、戦時下の社会の中で如何なるイメージと結びつき、どのような社会的評価を被るか調べるべく、メディアにおける言語に関する言説を分析する。本論で言う「イメージ」は社会言語学的表象の理論に基づく。社会言語学的表象は社会心理学における社会的表象の概念から発展したものであり、後者は「社会的に発展・共有され、実践的な目的を有し、社会全体に共通する現実の構築に寄与する知識の形態」として定義される。⁵⁴ 社会言語学において言語に関する表象は社会的表象の一つのカテゴリーとして扱われ、談話分析や言語教育などの分野で注目されつつある理論である。⁵⁵

言語の表象には肯定的なものや否定的なものが存在し、これらから当該言語の社会的評

⁵⁰ Прокопчук О. Коли мова має значення [https://zoloto.city/articles/244977/koli-mova-maye-znachennya] (2023年1月15日閲覧)などで見られる。本来の表記は *російська мова* である。

⁵¹ Jan Patrick Zeller and Dmitri Sitchinava, “The Russian language in Belarus and Ukraine,” in Arto Mustajoki, Ekaterina Protassova and Maria Yelenevskaya, eds., *The Soft Power of the Russian Language: Pluricentricity, Politics and Policies* (London: Routledge, 2019), p. 119.

⁵² Gerd Hentschel and Tilmann Reuther, “Ukrainisch-russisches und russisch-ukrainisches Code-Mixing. Untersuchungen in drei Regionen im Süden der Ukraine,” *Colloquium: New Philologies* 5, no. 2 (2020), p. 106-107, 114-115.

⁵³ 本章で扱う方法論は拙稿 *Икэдзава Т. Социолінгвістическіе рэпрэзентацыі языковых характэрыстык украінскага, русскага языков і суржыка в украінскім медыядыскурсе // Філолагічні науки: навуковы журнал Полтаўскага нацыянальнага педагагічнага ўніверсітэту імені В. Г. Короленка. 2021. № 34. С. 65-73* でも論じた。

⁵⁴ Denise Jodelet, “Les représentations sociales : un domaine en expansion,” in Denise Jodelet, ed., *Les représentations sociales* (Paris : Presses Universitaires de France, 2003), p. 53.

⁵⁵ Henri Boyer, “Représentation,” in Josiane Boutet and James Costa, dirs., *Dictionnaire de la sociolinguistique, Langage et société* (Paris : Éditions de la Maison des sciences de l'homme, 2021, Hors-série), p. 301-304.

価値を導き出すことができる。2 つ以上の言語が存在する社会では、一方の言語の評価が高い場合、もう片方の言語の評価は低い状況が想定される。このような言語評価の相補性は言語の多数化・少数化の枠組で論じられる。この場合「少数化」とは「様々な程度で現れる、ある言語の標準的な社会的行使（なおかつコミュニケーションの領域）の縮小」として定義され、「多数化」は逆のプロセスないし結果を指す。⁵⁶ 多数化・少数化は当該言語の話者の数的比率や用いられる社会的範囲といった量的側面と、当該言語の社会的地位や支配性に関する主観的要素などの質的側面を区別することができるが、⁵⁷ 本論では主に言語の質的な多数化と少数化を考察することとする。

また本研究では表象をイデオロギーの構成要素とする立場に則り、⁵⁸ ウクライナ語・ロシア語・スルジクの多数化ないし少数化を促すような表象から、メディアの中でいかなる言語イデオロギーが展開されているか論考する。

3-3. 資料の収集と報道の傾向

本研究では社会言語学的表象を分析する媒体として、ウクライナのメディアがインターネット上に公開する、言語問題に関係する記事を収集している。この種のテキストでは実際の記者のみならず、一般人や専門家の見解がインタビューや引用の形で多々現れる他、インターネットではテレビや新聞などといった伝統的メディアに限らず、ウェブのみで記事を公開するサイトも積極的な情報発信を行なっているため、多様なデータを得られることが期待できる。

本稿で扱う資料体はウクライナ語版 Google News で「スルジク」のキーワードに該当する、2022年2月24日から10月末にかけて公開された92件の記事から成る（表11）。⁵⁹ 1件を除いて本文はウクライナ語で書かれており、全体の語数は題名を含めて96362語である。

本研究では記事の質的分析を主とするが、各記事に関してはメディアの種別や内容などに応じてメタデータを付与している。全体の記事数のうち44件は伝統的メディアが発行したもので、残りの48件は他に発行媒体を持たないウェブニュースサイトである（図1）。記事のテーマを大きく区分すると、文化人の発言や文化作品に関するものが25件、軍事侵攻の報道や取材が24件、ウクライナ語などの言語にまつわる解説や語学的助言が19件、

⁵⁶ Henri Boyer, “Présentation,” *Études de linguistique appliquée* 143, no. 3 (2006), p. 261.

⁵⁷ Philippe Blanchet, “Minorations, minorisations, minorités : essai de théorisation d’un processus complexe,” *Cahiers de sociolinguistique* 10, no. 1 (2005), p. 27.

⁵⁸ Pierre Mannoni, *Les représentations sociales* (Paris : Presses Universitaires de France, 2016), p. 56.

⁵⁹ Google. Google Новини [https://news.google.com/home?hl=uk&gl=UA&ceid=UA:uk] (2022年1月15日閲覧). 原則、毎月1日以降に日付指定で前月分の記事を収集している。

ウクライナ語教室の開講告知や取材が 15 件、ウクライナ・ロシアの歴史に関連するものが 7 件、政治的出来事の報道が 2 件である。

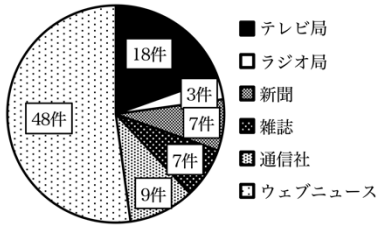


図 1. 記事の媒体による分類

掲載月	件数	掲載月	件数
2月24日以降	3	7月	14
3月	8	8月	11
4月	15	9月	7
5月	9	10月	13
6月	12	合計	92

表 11. 資料体の記事の公開月別件数

また各テキストに関しても、同じ記事で話題が言語に関連する箇所と関連しない箇所があり、前者の場合は話題となる言語が移り変わる場合もある。そこで本研究では分析の前段階として、どの言語がテーマとなっているかに基づき、必要であれば文単位にテキストを区切り、各抜粋に対応するメタデータを付与している。全体の 96362 語のうち、言語に関連する箇所は 36705 語に相当し、その中でもウクライナ語がテーマとなるのは 19723 語、ロシア語が 4753 語、スルジクが 4868 語、複数言語が 4614 語、その他の言語が 1789 語、個別言語に限定されない一般的な意味での「言語」が 1533 語である。Google News の検索対象は題名だけでなく本文を含むため、言語に関する話題が副次的であるケースが多く、その中でも 30323 語は現在の軍事侵攻に言及する部分である。またキーワードが「スルジク」であるにもかかわらずウクライナ語の言及が非常に多いのは、語学教室の取材や「ウクライナ語に切り替える」ことへの呼びかけが頻繁に現れるためと考えられる。しかしながら、ロシア語もテーマとしてある程度は触れられており、改めてスルジクという概念がウクライナ語・ロシア語と強く結びついていることを示している。

次節からはロシアによるウクライナ侵攻でウクライナ語・ロシア語・スルジクのイメージが変化していることが見て取れる、代表的なメディア記事のテキストを取り上げていく。

4. 戦争中の言語イメージ

4-1. 「武器」としてのウクライナ語

資料体を通じてウクライナ語には肯定的な評価が見られる。かねてからウクライナ語は唯一の国家語としてウクライナ国家を代表するのみならず、ウクライナ民族・文化を象徴するものとしてメディアの言説で取り上げられてきた。しかし 2022 年 2 月 24 日に始まるロシアによるウクライナ侵攻は、言語・国家・民族の繋がりを更に強固なものにしている。

ハルキウ州に住む教師は取材に対し、家族でウクライナ語を話すようになった経緯を以下のように語っている。

しかし2月24日以降、全てが変わりました。全面的侵攻が始まってから、我が家で誰が最初にウクライナ語を話すようになったと思いますか？すぐに前線へ向かった夫です。子供たちはすぐに恥ずかしくなりました。これはあらゆる場面でウクライナ語に切り替わる、強いきっかけとなりました。その時、スルジクや間違いを嫌がらないように、との私のアドバイスが役に立ちました。こうして我が家は少しずつ、苦労しながらもウクライナ語を話すようになりました。⁶⁰

このようにウクライナ語に「切り替える」選択はロシアの軍事行動が直接の原因になっており、2014年のマイダン革命や、それに続くクリミア併合とドンバス戦争以上に大きな契機をもたらしている。ウクライナ語教室に通うフメリニツキー出身の男性は、両親がそれぞれロシア話者とウクライナ話者で、ロシア語とスルジクが広く用いられる街で育ち、「街にいた友人と同じように殆どロシア語で考えていた」と言う。その彼も、ウクライナ語を学ぶ決心が今回の出来事についてと述べている。

彼が言うに、2014年には完全にウクライナ語に切り替わろうとしたが、その試みは「弱く短命」であった。しかし今年の2月に全面的戦争が始まり、ウクライナ語を話し言葉として確固たるものにする願望が「改めて燃え上がった」。*[...]「その時になって、ようやく頭の中に困惑が湧いた。ロシア語を話すということは、ロシアの擬似文化の一部になるということなのだから、追い出さなければ。」*⁶¹

後述するように、現今の事態はロシア語の社会的評価の低下に直結しており、相対的にウクライナ語の需要が大きくなっている。しかしウクライナ語それ自体が有する価値も侵攻の文脈の中で高まっており、次の例に見られるように、ウクライナ語は国家や民族の象徴としてのみならず、侵攻に歯向かう「武器」になぞらえられる。

「言葉よ、あなただけが私の武器！」とレーシャ・ウクライーンカは書いた。確かに言語は武

⁶⁰ Юрченко О. Нам мова болить: як об'єднати українців навколо української мови? [<https://osvitoria.media/experience/nam-mova-bolyt-yak-ob-yednaty-ukrayintsiv-navkolo-ukrayinskoyi-movy/>] (2023年1月19日閲覧).

⁶¹ Кречетова Д. Не мати нічого спільного з окупантом. Історії українців, які зрікаються російської [<https://life.pravda.com.ua/society/2022/05/28/248842/>] (2023年1月19日閲覧).

器であって、だからこそ清潔に保ち、油を差し、守り、巧みに用いなければならない。前線で我々の兵士が自分の武器を使うのと同じように。確かに彼らの中にはロシア語話者もいるが、誰もロシア語のためには戦っていない。我々の安全、統一性、将来の展望がとりわけウクライナ語に結びついていることを彼らは皆、よく理解していると私は信じる。このことを我々一人一人が自ら気づかなければならない。⁶²

ウクライナ語は自国を守る「武器」として比喩的に表現されるが、戦争における実際の「戦闘手段」としても紹介される。侵攻が始まって間もない2月26日付に公開された『ウクライナの都市を這い回る工作員：彼らを暴くとても簡単な方法』と題された記事では、不審者に対して通りの名前を聞いたりする他、以下のような助言が示されている。

「デー・ヴィ・メシカイェテ？ [ウクライナ語で『あなたはどこに住んでいますか』]」は [工作員を見分けるのに] 適した質問です。ロシア語話者にはわかりません。⁶³

かくして現在の戦争は実際の前線のみならず、言語の面でも戦われることが示されている。2022年7月にクリヴィー・リフでは「ウクライナ語で話そう」という名の言語サークルが立ち上げられ、市内23ヶ所の図書館で週2回、司書がウクライナ語の授業を担当しているようである。これを報道する記事では市の軍事行政の責任者がFacebookに記した開催の意図が紹介されている。

彼の言葉によれば、市はウクライナ語への切り替えのプロセスを「優しく」また「快適に」進めたいと考えており、軽率なことはしたくない。「歴史的に我々クリヴィー・リフ人は、主にロシア語を話すことに慣れているが、今となっては言語が我々の武器でもある」。⁶⁴

ロシアによる侵攻が始まってから語学教室が各地で開講されているが、その目的は地域を跨いで共通している。ムィコラーイウは2001年の国勢調査でウクライナ語母語話者が

⁶² *Євтушенко В.* Чому сумчани заговорили російською, і як повернути в місто українську [https://cukr.city/profit/2022/ukrainska-mova-v-sumakh/] (2023年1月19日閲覧).

⁶³ *Надзвичайні Новини.* Диверсанти розповзлись по українським містам: дуже проста схема, як їх розсекретити [https://nnovosti.info/news/diversanti_rozpovzlis_po_ukrajinskim_mistam_duzhe_prosta_shema_jak_jih_rozsekretiti_video-65943.html] (2023年1月19日閲覧).

⁶⁴ *Осадча Я.* Лагідний перехід на українську: у кожному районі Кривого Рогу створили мовні клуби [https://life.pravda.com.ua/society/2022/07/4/249406/] (2023年1月19日閲覧).

人口の42.2%を、ロシア語母語話者は56.8%を占めており、⁶⁵ 実態はともかく、ロシア語を話す街の代表格として挙げられる。クリヴィー・リフと同じく7月からウクライナ語の授業が開かれているムィコラーイウ市立図書館の館長は、言語と国の繋がりを、かつてロシア語が多く用いられた都市に望まれる変化を通じて述べている。

図書館の館長 [...] によれば、この企画への参加は、ウクライナ語を話したくとも、まだ話す勇気がない人にとって有益なものであるとのこと。「現時点で会話サークルには14人しかいません。人数が今後増えていくことを期待しています。そしてムィコラーイウはウクライナである、と聞くようになるでしょう。これは人々に自由を感じてもらうために行われています。 [...]」⁶⁶

ウクライナ語を話す意義は記者や行政の関係者のみならず、一般の人々にも広く共有されている。2014年の紛争でも戦地になったスロヴァンスクの出身で、フメリニツキー州の村に避難し、現在はボランティア活動で人道支援を行う男性の体験談からは、ウクライナ語そのものよりも、ウクライナ語を話そうとする言語行動が評価されることが伺える。

最初は村の人がどう反応するかわかりませんでした。というのも私たち家族はロシア語を話すのです。でも1ヶ月経って自由にウクライナ語を話すと、私の努力を人々が評価してくれることが分かりました。確かに彼らはどんな言語でも話していいとは言っていました。それでも私は、国家語に切り替えようとしたのです。⁶⁷

これらのテキストからは、今日のロシアによる軍事侵攻の中でウクライナ語が比喩的にも実践的にも「武器」になっていることが分かる。この「武器」はロシア語を利用するロシア国家に対して向けられるものとして、更にはウクライナへの帰属を望む人々が、それを表明する手段として描かれている。

4.2. ロシアとの関わりを表すロシア語

⁶⁵ Державний комітет України. Банк даних. Перепис населення. [http://db.ukrcensus.gov.ua/MULT/Database/Census/databasetree_uk.asp] (2023年1月19日閲覧).

⁶⁶ Гордієнко О. Проєкт "Єдині": Миколаївці вчать говорити українською [https://suspilne.media/261070-proekt-edini-mikolaivci-vcatsa-govoriti-ukrainskou/] (2023年1月19日閲覧).

⁶⁷ Журавель Д. «Найскладніше – переконати людей виїхати». Як громада на Хмельниччині стала другою домівкою для переселенців зі сходу [https://shotam.info/nayskladnishe-perekonaty-liudey-vyikhaty-yak-hromada-na-khmelnichchini-stala-druhoiu-domivkoiu-dlia-pereselentsiv-zi-skhodu/] (2023年1月19日閲覧).

本資料体の中でロシア語はウクライナ語と対照的なイメージを帯びており、互いの社会的評価は反比例の関係にある。まず着目すべきは、前述のプーチン大統領の演説で見られるような言説が明確に否定されていることである。

プーチンが掲げるロシア語話者の保護という目的は、ヴォルノヴァハとマリウポリの犠牲者に鑑みると、まるで冒流のようである。そのため、ウクライナ人の中には国家語を学ぶか、上達することを望む人の数が増えている。⁶⁸

この論説記事の一節からは、ロシア語の社会的評価の低下が単にロシアが侵攻に踏み切ったことだけでなく、それがもたらしつつある結果にも起因することが記されている。プーチン大統領は2月24日の演説で「ネオナチがウクライナの政権を握った」と主張しているが、⁶⁹ ロシア語話者のサッカー選手がインタビューの中で反駁している。プーチンで子供時代を過ごした彼は、同地で民間人が多数虐殺されたことを「凄惨」と表現しつつ、次のように記者の質問に答えている。

—この人たちは「ナチ」からロシア語話者を「解放」しに来たそうですが。—今、私はあなたとロシア語で話していて、あなたはウクライナ語ですよ。何か問題でも起きましたか。ナチやロシア語話者の弾圧についてはウスリースク [極東ロシアの沿海地方の都市] だけで議論していればいいです。⁷⁰

ロシア語の著しく低い社会的評価はロシア政府が侵攻に踏み切った名分だけでなく、それが実際に起こしている出来事が大きく影響している。俳優のナタリア・デニセンコはロシア語話者の親に向けて、子供にウクライナ語を話させるためのアドバイスを示しており、歴史的な事実を語り継ぐ意義が主張されている。

彼女は毎日、なぜウクライナ語を話すようになったか息子と話した。彼女は「私がこれまであなたと話してきたロシア語は、私たちの敵の言語なの！私たちは彼らが友人だと思って、同

⁶⁸ *Николаєва М.* Суржик, лайка та військовий корабель: як війна змінила українську мову [https://weekend.today/lica/yak-vijna-zminyla-ukrayinsku-movu.htm] (2023年1月19日閲覧).

⁶⁹ *Администрация Президента России.* Обращение Президента Российской Федерации [http://kremlin.ru/events/president/news/67843] (2022年1月19日閲覧).

⁷⁰ *Кузьмяк Л.* "Іноземці не розуміють, як можна великими руками зупинити танк": голкіпер з Гонконгу разом із Зозулею жертвує для України [https://football24.ua/inozemtsi_ne_rozumiyut_yak_mozhna_golimi_rukami_zupinyati_tank_golkiper_z_gonkongu_razom_iz_zozuleyu_zhertvuye_dlya_ukrayini_n720053/] (2023年1月19日閲覧).

じ言語を話していたけれども、私たちの仲間を殺しに来て、爆弾を投げた、だからもう [ロシア] 語は話したくない、よその [言語] なの！私たちの祖先は皆、ウクライナ語を話していたのよ」と言っていた。⁷¹

このようにロシア語を話す行為はウクライナを侵攻しているロシアと関わりを持つこととして解釈され、前述のようにロシア語の著作物を排除する動きへと発展している。Telegram でウクライナ語の学習リソースを投稿している教師は、単にロシア語に止まらず、ロシア文化との関係を断とうとする傾向が強まっていることに言及している。

ここ数週間でもう一つの喫緊の問題が注目されている。ウクライナのあらゆるものに対するロシア人の遺伝的軽蔑や、彼らが我々の土地で行う恐ろしい残虐行為が、予見できる反応を呼んでいる。ネットでは、特にロシアの文化を含めて、我々を侵略者と結び付けるあらゆるものを捨てる要求で溢れている。ウクライナ西部では、すでにプーシキンの記念碑の取り壊しが始まっています…。⁷²

ロシア語は「敵国の言語」として描かれているが、その話者もまた、否定的な文脈で扱われる。『ロシア語話者のウクライナ人は神話で対義結合である』と題された論説記事では、ウクライナにおいてロシア語が用いられるに至った歴史的な経緯が述べられており、「脱ロシア化」の必要性を説いている。

ウクライナには一度も、ロシア語を話すウクライナ人などいなかった。そのような奇跡は科学的に未知である。ウクライナに多く住んでいるのはロシア化された人々であって、そのうえ彼らは意識的に、執拗に、一貫してロシア化された。⁷³

ロシア語は現在のロシア連邦を象徴するのみならず、過去のロシア帝国やソ連が同化政策で利用した道具としても認識されており、現在の戦争は自他の基準に基づいたウクライナ語とロシア語の対立を更に強めている。しかしながら、この傾向に慎重な立場もある。

⁷¹ 5 Канал. Як навчити дітей української мови – поради [<https://www.5.ua/dv/life/274346>] (2023 年 1 月 19 日閲覧).

⁷² Гаврилова Л. Чому росіянам ніколи не сказати по-людськи «паляниця» [<https://www.ukrinform.ua/rubric-ato/3463551-comu-rosianam-nikoli-ne-skazati-poludski-palanica.html>] (2023 年 1 月 19 日閲覧).

⁷³ Коваль Н. Російськомовні українці – міф і оксюморон. Без оцінок і приватних думок [<https://www.vectornews.net/exclusive/206680-rosyskomovni-ukrayinc-mf-oksyumoron-bez-ocnok-privatnih-dumok.html>] (2023 年 1 月 19 日閲覧).

ヴィーンヌイツャでウクライナ語教室を組織している人物は、ウクライナ語を話せない人が「ヘイト」を受けていることを証言している。

SNS の知り合いのページで「もしロシア語で舌が痛まないのなら、ロシア船の方に失せろ」と書かれた画像を見ました。私はこのような画像に怒りを覚えました。というのもこれではいけませんから。ロシア語を話すからと言って、他人をそのように扱っても、追いやってもいけません。⁷⁴

このテキストで登場する「ロシア船」は、2月24日にズムィヌィ島の守備隊がロシアの巡洋艦モスクワに対し「ロシアの軍艦は消え失せろ」と通信したことを発祥とするインターネット・ミームのことを指す。記事が公開されたのは2022年5月28日であるが、その1ヶ月前の4月15日に巡洋艦モスクワは沈没したと報じられている。⁷⁵ ロシア語話者が沈没したロシア海軍の主力艦と並んで語られることは、戦争の中でロシア語が打倒すべき「敵の武器」として認識されることを物語っている。

4-3. 「ウクライナ化」の過程としてのスルジク

先述のようにスルジクはウクライナ語とロシア語とは異なり、文語を備えた体系的な言語とは見なされないため、低い社会的評価を被る。スルジクは歴史的な文脈でウクライナ人ないしウクライナ語の「ロシア化」の結果として捉えられ、言語的特徴としては一般的にロシア語が混ざっていることが強調される。

スルジクとロシア語の語句は悪い習慣みたいなものです。これらは我々の言語を汚し、洗練された響きを妨げます。あなたの言葉が自分には完璧に思えても、恐らくは、気付かずにロシア語の語句を使っていることでしょう。⁷⁶

スルジクはウクライナ語の言語規範にそぐわないだけでなく、多くの人が知らないうちにロシア語の発音や語彙を用いることが問題視される。子供がウクライナ語を習得する方法を紹介する記事では、この点を意識する必要性が強調されている。

⁷⁴ Кречетова. Не маги нічого спільного з окупантом.

⁷⁵ BBC News Русская служба. Гибель российского крейсера «Москва» в Черном море: пять важных вопросов [https://www.bbc.com/russian/news-61121371] (2023年1月19日閲覧).

⁷⁶ Vogue. Як правильно говорити українською: позбуваємося росіянізмів [https://vogue.ua/article/culture/lifestyle/yak-pravilno-govoriti-ukrainskoyu-pozbavlyayemosya-rusizmv-48598.html] (2023年1月20日閲覧).

まず、日常的な会話でスルジクを使うウクライナ人（学校生徒を含む）は多い。スルジクを完全に避けるのは不可能だとする考えもある。しかし母語の知識は大いに伸ばすことができます。またスルジクとウクライナ語の不勉強を混同してはならない。正しく話すためには、母語をなるべく早く習得する必要があります。⁷⁷

このようなスルジクに対する否定的な見解は侵攻以前から観察され、その話者はウクライナ語を正しく話すか、十分なレベルまで習得する意欲が無い者として位置付けられてきた。しかし戦争の中でロシア語の社会的評価が著しく低下し、ウクライナ語の需要が高まったことで、スルジクの別な側面が着目されつつある。2022 年末までサッカー・ウクライナ代表の監督を務めていたオレクサンドル・ペトラコフは自らの言語選択について以下のよう

に語っている。

正直に言います。私はロシア語を 64 年間、話してきました。でも今後はウクライナ語を話すため、あらゆる努力をします。スルジクを話すこともあるでしょうが、誰も私に怒ることはないと思います。代表監督に就任した初日から、ウクライナ語を話しています。ウクライナ語を話し続けます。ロシア語は話したくもない。⁷⁸

かくしてウクライナ語を意識的に話そうとすることが、その者の言語態度を評価する上で重要な基準となっている。主にロシア語を話していた人がウクライナ語を学び始める中で生じるスルジクは、現段階で許容しうる誤りとして認識される。タレントのヴァディム・ミチコフスキーは自身も仕事でウクライナ語に切り替えた立場から、スルジクに寛容な意見を述べている。

今は皆がウクライナ語に切り替えることに賛成します。ちなみに、ロシア語を話す私の知人の中に、ウクライナ語に切り替えている人もいます。彼らがうっかりスルジクを話してしまっても、時が経てば発音は磨かれるでしょう。大事なのは、ウクライナ語を話そうと思うことです。そしてこれは、意識的な選択なのです。⁷⁹

⁷⁷ *Погляд. Опанування граматики української мови: як здійснити свою мету школярам* [<https://pogliad.ua/news/obzor/uspiln/opanuvannya-gramatiki-ukrayinskoyi-movi-yak-zdiysniti-svoyu-metu-shkolyaram-425898>] (2023 年 1 月 20 日閲覧).

⁷⁸ *Годунова К. «Вони це заслужили». Олександр Петраков – про санкції в російському футболі* [<https://suspilne.media/213018-voni-ce-zasluzili-oleksandr-petrakov-pro-sankcii-v-rosijskomu-futboli/>] (2023 年 1 月 20 日閲覧).

⁷⁹ *Тараненко В. Дядя Жора: Нині діти інші – співають гімн з рукою біля серця. Це пробиває на сльози*

この場合スルジクは、ロシア語から離れ、ウクライナ語を話そうとする意欲を示しており、言語の「切り替え」が社会的潮流になりつつある中、当該混合語は肯定的にも評価されている。上記で紹介したレーシャ・ウクライーンカを引用する記事でも、スルジクは原則「ネガティブな現象」として紹介されるが、言語的にはウクライナ語に近い性質が言及されている。

他方で、もしウクライナ語をよく知らないが故に、損いたくないと思って、ロシア語を話すか、スルジクを話すか、という問題に直面した場合、スルジクを選んだ方が良い。結局のところ、ウクライナ語により近いのです。⁸⁰

肯定的な評価を受けるのはウクライナ語を話そうとして結果的にロシア語が混ざってしまうスルジク話者の言語態度であって、混合現象そのものではない。3歳の娘に言葉遣いを指摘されたことを「恥」と感じたことで、ある父親は家族の中でロシア語の語彙を排除しようとしている。

また、お願いがあります。私たちを個人的に知っている方は、もし私たちの口からロシア語の単語かスルジクを聞いたら、それを指摘して下さい。私たちを正して下さい。私たちを文語に向けて下さい。そして、もしよければ、私たちと一緒にやりましょう。⁸¹

スルジクはあくまでウクライナ語の習得に向けた「途中段階」であり、純粋なウクライナ語ないしウクライナ語の文語を話すことが望ましいことには変わりはない。しかしながらウクライナ語とロシア語の両「言語」の社会的評価が著しく二極化する中で、スルジクは「非言語」としての側面よりも「ウクライナ語に近い」言語的特徴が重要視されており、れっきとした言語体系ではあるがウクライナ語とは相容れないロシア語よりも高く評価される状況が観察できる。

4-4. まとめ

以上、2022年2月24日以降のメディア記事において、ウクライナ語・ロシア語・スルジクの3つの言葉が如何なる表象と結びつき、またこれらがどのような社会的評価を被る

[<https://glavcom.ua/interviews/dyadya-zhora-u-ditinstvi-ya-ne-znav-gimnu-a-ninishni-diti-get-inshi-vid-cogoproshivaje-na-slozi-856576.html>] (2023年1月20日閲覧).

⁸⁰ *Євтушенко*. Чому сумчани заговорили російською.

⁸¹ *Прокопчук*. Коли мова має значення.

か論じてきた。資料を通じて第一に目立つのはウクライナ語とロシア語のイメージが対照的であり、これに応じて両語の評価も両極化していることである。ウクライナ語は実践的に作業員などの「敵」の判別に用いる「武器」として言及されるのに対し、ロシア語は逆に「敵国の言語」としての解釈が強まっている。現在の戦争の中で両語は自他を区別する要素となっており、ウクライナ語は今やウクライナ人を団結させるだけでなく、ロシア政府の指導者層が地政学的利益を追求するために利用するロシア語に対して、一種の「防衛」を主導する象徴的な役割が描かれている。ロシア政府は「ロシア語話者の保護」を侵攻の正当性として主張しているが、これは結果としてウクライナ人がロシア語やロシア文化から離れる契機を与えている。必然的にウクライナ語の社会的評価は質的な多数化を、ロシア語は質的な少数化を受けており、2022年の言語使用に関する世論調査は、この多数化・少数化の流れが量的に反映されたものだと言える。

ウクライナ語とロシア語の二項対立が鮮明になる中、スルジクの評価は両面的である。一方ではロシア語ともウクライナ語とも明確に異なる言葉として扱われており、「言語・非言語」の対立軸が背景にあると考えられる。この点において混合語の解釈は変わっておらず、「文語を話せない」「教養が無い」「言語問題に関して無関心である」などといった、⁸² 侵攻以前から代表的なスルジク話者の表象が引き続き確認される。しかし他方でスルジクはウクライナ語を話そうとする努力の証として肯定的に捉えられている。

2014年のマイダン革命では「戦うスルジク」という現象が見られた。⁸³ これはウクライナ語とロシア語の双方を熟知する人々が、敢えてウクライナ語の規範に合致しないスルジクをSNSで用いることで、社会的権威に対抗しつつも「ウクライナらしさと、それを表現する完全な創造的自由を主張する」運動であった。⁸⁴ 本研究の資料体でもスルジクが「生きた言葉」として紹介される場合はあるが、ウクライナ語に切り替わりつつある人々のスルジクそれ自体には、国への帰属を表す機能があるとは考えられない。本論文で扱ったテキストで好意的に受け止められるのは、あくまでウクライナ語への「移行手段」としてのスルジクであり、混合語が文語の基準に達していない言葉であることに変わりはない。

かくしてスルジクはウクライナ語に対して質的に少数化を被るままであるが、ロシア語に対しては質的に多数にある関係を築いている。話すのが望ましい言語の価値基準は戦争によって変化しており、3つの言葉の評価体系は「言語であるか」よりも「ウクライナ語に近いか」が重要視され、「言葉の純粋さ」よりも「ロシア語からの距離」が優先されている。かつてロシア語は国家語としての地位がなくとも権威的な言語であったため、「言語で

⁸² IKEZAWA, “Reinterpretation of Historic Language Valuation”, pp. 95-98.

⁸³ Laada Bilaniuk, “Ideologies of Language in Wartime,” in Olga Bertelsen, ed., *Revolution and War in Contemporary Ukraine: The Challenge of Change* (Stuttgart: Ibidem, 2017), pp. 155-157.

⁸⁴ Ibid., p. 156.

はない」スルジクはウクライナ語とロシア語の双方に比べて低い社会的評価を受けていた。現在は却って言語的にロシア語よりもウクライナ語に近いことが注目され、スルジクはロシア語よりは話すのに望ましい言葉となっている。

言語の純正よりも相対的な距離が問題となる背景には、伝統的なスルジクと「ネオ・スルジク」の違いがあると考えられる。前者がロシア帝国時代からウクライナが受けた植民地支配の遺物として見なされるのであれば、⁸⁵ 後者は現に起こっているロシア語話者ないしロシア語の「ウクライナ化」の体現として解釈される筈である。この立証には「ネオ・スルジク」の言語的実態に関する更なる調査が必要であるが、少なくとも理想的な言語行動に向けたプロセスとしてのスルジクが、ウクライナの言語状況ならびに言語イデオロギーに変化をもたらしつつある点は確かである。

おわりに

本稿ではウクライナにおいてウクライナ語のみならずロシア語が用いられ、スルジクという混合語が発生するに至った歴史的な経緯と、言語に関連する国内外の政策を踏まえた上で、現在の軍事侵攻がウクライナ人の言語選択に及ぼす変化の記述を試みた。ここで扱ったテキストは資料体の一部に過ぎないが、大勢としては言語的「ウクライナ化」の流れが明らかに強まっており、「味方の言語」としてのウクライナ語像と、「敵の言語」としてのロシア語像が描かれている。両語の混合語であるスルジクは原則として否定的に捉えられているが、ウクライナ語を話そうとする姿勢としては肯定的に解されており、戦争中における言語のイメージの変化を示す、顕著な事例である。本論文で扱った資料はウクライナ語で記された新聞記事に限られるが、現在のウクライナにおける言語環境の変化を包括的に記述するにはロシア語のテキストや、SNS で展開される言語に関する言説も研究対象に含める余地が大いにある。また本稿ではロシア語の使用を支持する立場といった少数の意見は取り上げられなかったが、これは分析資料の拡張と共に今後の課題としたい。

⁸⁵ IKEZAWA, “Reinterpretation of Historic Language Valuation”, pp. 96-97.

Impact of the Russian Military Aggression on the Shifting Language Image in Ukraine

IKEZAWA Takumi

Since the Russian Federation launched a full-scale invasion of Ukraine on February 24, 2022, the debate on language issues in Ukraine has gained another momentum, providing its citizens the opportunity to “switch” from Russian to Ukrainian. Given that the linguistic situation is drastically evolving in the country, this article aims to illustrate the impact of the Russian military aggression on the social valuation of the Ukrainian and Russian languages, as well as that of surzhyk, a mixed speech of the two. After providing an overview of the linguistic circumstances in Ukraine based on public opinion poles and discussing recent political and social events related to the language issues, we analyze the online media discourse on each concerned language with the aim of providing an up-to-date description of the linguistic ideology in Ukraine.

From our corpus consisting of 92 articles published from the beginning of the war to the end of October 2022, we observe a polarization in the valuation of Ukrainian and Russian, where the former is often referred to as a practical “weapon” enabling the citizens to identify saboteurs or diversionists. The latter, on the other hand, is increasingly interpreted as the language of the “enemies” used by the Russian leadership to pursue its geopolitical interests, against which the Ukrainian language is portrayed having a symbolic role not only uniting the people, but also taking defensive measures. In midst of this linguistic “Ukrainization”, the traditional interpretation of surzhyk as a “non-language” in comparison to Ukrainian and Russian, and the negative representations of its speakers as “uneducated” or “indifferent to language issues” remain to be seen. At the same time, however, the mixed language is perceived positively as a sign of effort to speak Ukrainian, becoming a better option than to speak Russian.

Such an ambivalent attitude toward surzhyk could be explained by the change in value criteria for language choice. Our texts suggest that within the valuation system of languages in Ukraine, the linguistic proximity of one’s speech to Ukrainian or its distance from Russian is emphasized over its nature of being a “language” or its linguistic purity. We observe that the use of surzhyk is positively interpreted as an attitude toward speaking Ukrainian, possibly due to the “Ukrainianizing” effect it represents in contrast to the traditional form of the mixed speech, considered to originate from the historical Russification of the Ukrainian language.